

『大鏡』 「肝試し」 テスト問題 へ2/2

【二】本文について、設問に答えよ。

「子四つ。」と奏して、かく仰せられ議するほどに、丑にもなりにけむ。「道隆は右衛門の陣より出でよ。道長は承明門より出でよ。」と、それをさへ分かたせ給へば、①しかおはしましあへるに、中関白殿、陣まて念じておはしましたるに、宴の松原のほどに、そのものともなき声どもの聞こゆるに、術なくて②帰り給ふ。栗田殿は、露台の外まで、③わななくわななくおはしたるに、仁寿殿の東面の砌のほどに、軒と等しき人のあるやうに見え給ひければ、④身の候はばこそ、仰せ言も承らぬ。」とて、⑤おのこの立ち帰り参り給へれば、御扇をたたきて⑥笑はせ給ふに、入道殿はいと久しく見えさせ給はぬを、いかげと思し召すほどにぞ、いとさりげなく、ことにもあらずげにて参らせ給へる。「いかにいかに。」と問はせ給へば、いとどのどやかに、御刀に、削られたる物を取り具して奉らせ給ふに、「こは何ぞ。」と仰せらるれば、「ただにて帰り参りて侍らむは、証候ふまじきにより、⑦高御座の南面の柱のものを削りて候ふなり。」と、つれなく申し給ふに、いとあさましく思し召さる。異殿たちの御気色は、いかにもなほ直らで、この殿のかくて参り給へるを、帝よりはじめ感じののしられ給へど、うらやましき⑧にや、またいかなる⑨にか、もの言はでぞ候ひ給ひける。

なほ疑はしく思し召されければ、つとめて、「蔵人して、削り屑をつがはしてみよ。」と仰せ言ありければ、持て行きて押し付けて見給ひけるに、⑩つゆ違はざりけり。その削り跡は、いとけざやかにて侍めり。末の世にも、見る人はなほあさましきことにぞ申しかし。

問一 次の語句の読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えよ。

①丑 ②蔵人

問二 傍線部①について、現代語訳として最も適切なものは次のうちどれか。

- ア 天皇が命じた道筋で同時にお出かけになったところ
- イ 天皇が命じた道筋を確認して出発し申しあげたところ
- ウ 天皇が命じた建物を知らなかったため確認したところ
- エ 天皇が命じた建物が現存する建物なのかを調べたところ

問三 傍線部②とあるが、その理由となる部分を本文から十六字で探して、はじめと終わりの三字を書け。

問四 傍線部③について

(1) 用いられている動詞を《例》にならって文法的に説明せよ。

《例》丑にもなりにけむ。↓ラ行四段活用動詞「なる」の連用形

(2) 現代語訳せよ。

問五 傍線部④について

(1) ①係助詞を指摘し、②その結びを抜き出せ。

(2) 現代語訳せよ。

問六 傍線部⑤とは対比的な表現を十二字で抜き出せ。